

子ども科学館でレインスティック作り

館林 雨ごいの儀式に使われたというレインスティック作りが、館林市の向井千秋記念子ども科学館で開かれ、親子ら39人が参加した。

講師は水ジャーナリストの橋本淳司さんで、作ったのは長さ約30センチの紙筒製。筒のまわりにらせん状に楊子を刺し、中に小石や穀物類などを入れ、筒を動かすと楊子に引っかかって音が出る。

参加者は親子で協力しながら千枚通しで紙筒に穴をあけ、トンカチで楊子を刺して麦や小さく切ったうどん、ビーズなど好みの音



小石や麦で音 親子で製作、演奏楽しむ



レインスティックを作る親子とレインスティックで演奏を楽しむ参加者

のもと”を入れた。完成後は全員で「崖の上のポニョ」に合わせて演奏も楽しんだ。橋本さんは「筒の長さや中に入れるものでいろいろな音が楽しめます」と話していた。

レインスティック作りは31日まで開催中の企画展「みずぺディア」の一環として開催された。